



## 第31回定期総会のお知らせ

日時:6月28日(日) 午後2時 開会

会場:町上会館

富谷市日中友好協会の定期総会を開催します。  
終了後、懇親会を行います。(参加費 500円)

また当会の会費 3,000円を受け付けします。  
なお県日中の会員は別途会費 6,000円も受け付けをしますのでよろしくお願いいたします。

## ブルーベリー交流会のご案内

留学生を招いて、3年ぶりに、ブルーベリー交流会を行います。会員8名、留学生6名くらいで、高橋農園のブルーベリー摘み取り、とみやどでの昼食を予定しています。

日時:7月12日(日)

11:30~14:00

参加費:500円

※参加希望者は安住へ

## 中国古典に学ぶ

日本の為政者は古来より、中国の古典を学んでいたようで、武田信玄の軍旗に『孫子』の一節「疾如風、徐如林、侵掠如火、不動如山」と記されています。また、徳川家康も『貞観政要』を愛読していたとされています。中国の古典には、私たちの人生を豊かにする英知や教訓が凝縮されています。先行きの見えない現代社会で学べるものがあると思います。いくつかピックアップしました。

『君子の徳は風なり。小人の徳は草なり』「論語」顔淵第十二 19

君子之徳風也、小人之徳草也、草上之風必偃

人の上に立つ立派なリーダーの「徳」よい行いは風で、小人の「徳」は草です。この草に風が当たれば、必ずなびくということ。「組織や家庭の空気は、上に立つ人の日頃の姿勢で決まる」とも考えられ、誰かの上に立つ立場であれば、自分が発する「風」が周りの「草」をどう揺らしているかを意識せよ、という戒めにもなるのではないのでしょうか。

『彼を知り己を知れば百戦殆うからず』「孫子」謀攻篇

知彼知己、百戦不殆

敵(相手)の実情と自分の実力・状況を正しく理解していれば、何度戦っても危険な敗北には至らない。ビジネスでは、競合分析と自社分析の重要性を説き、人間関係やコミュニケーションでは「相手の立場と自分の状態を理解して行動せよ」という教訓として用いられています。

『雲、殿檻を攀ず。檻折る。』「漢書」朱雲伝

雲攀殿檻、檻折。

朱雲が成帝に、直接諫めを行ない、帝の怒りに触れて役人に強制退去されながら、なおも、宮殿の欄干にしがみつきながら、帝を強く諫め続けた結果、欄干が折れてしまった。日本では「檻を折る」すなわち「折檻(せっかん)」と言われるようになりました。しかし、最近「折檻」という言葉が、「子どもなど弱者を虐待する」といった意味で使われており、その用法は原義からは外れています。

『己を反る者は、事に触れて皆薬石となる。』「菜根譚」前集 147

反己者、触事皆成薬石。

常に自分を振り返り反省できる人は、どんな出来事に出会っても、それを自分を磨くための「良い薬」「教訓」に変えられる。その続きに、「尤人者、動念即是戈矛。」とあり、人の過失を責め咎める人は、心を動かすごとに、それがすべて自分を傷つける刃物になるとあります。